

特集1 シミュレーション・商品先物取引

[6] プロイラー取引

養鶏業者は売り、ユーザーは買い

編集部

「今年は随分、おかしな相場だな。油断は禁物だ」。2004年6月、プロイラー生産者、養鶏太郎は意外な相場に驚きました。

プロイラーは例年、年初から夏場にかけては5月に少し上がる以外はほぼ一貫して下がり、9月ごろを底に12月にかけ値上がりするのが常でした。クリスマスには手羽を食べる家庭が日本でも結構多いと、「夏は豚肉やうなぎ、冬は牛肉やプロイラーを好む」風潮がまだまだ残っているからです。

下がるべきときに上がる

ところが2004年は違っていました。春先に鳥インフルエンザの影響で大きく下がった反動から現物相場が4月以降は急上昇、6月に入っても下がらず、例年とは逆の動きをしていました。「この反動は必ず来る。とくに9月は例年、安値を付けることが多い。さて、どうしたものか」。困惑した養鶏太郎の頭にフッと福岡商品取引所のプロイラー先物取引が浮かびました。

3年前、プロイラーの先物取引が始まったころ、投機資金が大量に流入、価格が乱高下していましたがありました。それを見て養鶏太郎は敬遠していましたが、最近は相場がかなり落ち着いてきています。取引所に聞いてみると「2004年から使いやすいよう規則を改め、価格が乱高下しないよう市場管理も厳しくしました。最近では売買の6割が当業者で、

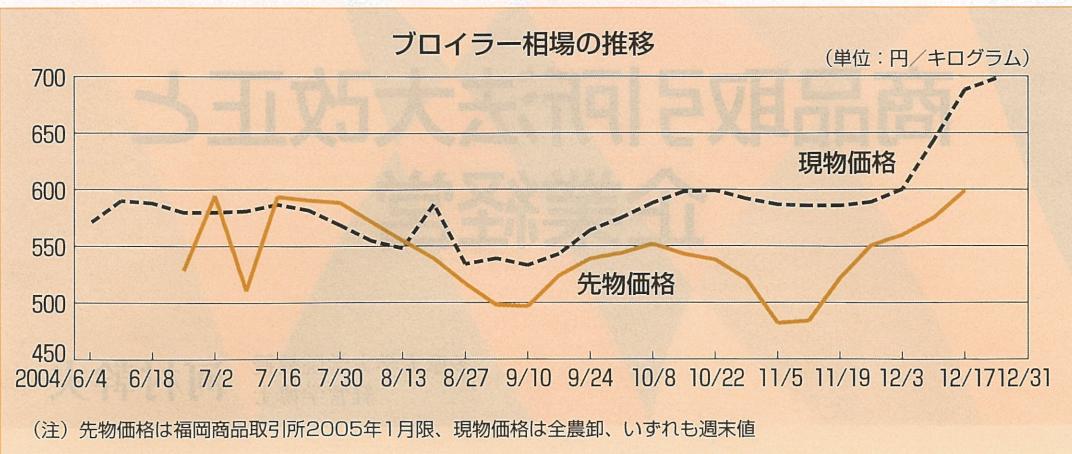
価格の変動もほぼ現物とスライドしています」という答えです。

「試しに少しやってみるか」。養鶏太郎は7月初め、ちょうど売買が始まったばかりの2005年1月限（1月決済物）を思い切って20枚（1枚は10トン）売ってみました。価格は1キログラム570円。1週間前より1割強高くなっています。このときの現物価格は1キログラム580円。先物価格とほぼ同じような水準でした。

9月の底値で買い戻し

それから1カ月余りの8月上旬、価格は少しづつ下がってはきたもののまだ先物価格、現物価格とも550円を上回る水準が続いていました。ところが8月中旬、目立った変化が出てきました。価格が先物、現物ともじわじわ下がり始めたのです。9月に入ると先物価格はついに500円を割り込みました。一方、現物価格も530円台になっています。

ちょうどそのころ、養鶏太郎にユーザーから30トンの注文が入りました。そこで、養鶏太郎は現物を535円で売ると同時に、先物取引で売っていた20枚分を500円で買い戻しました。先物では1キログラム70円、200トンでは1,400万円の利益です（手数料は除く）。一方、現物価格は7月初めより売値が1キログラム45円下がっていますが、差し引きでは1キログラム25円の利益です。つまり、養鶏



太郎は現物価格が535円のときに200トン分を605円で売ったのと同じことになったのです。それより少し前の8月下旬、大手総菜・弁当メーカーの購買担当者、食鳥次郎もプロイラー相場の行方を気にしていました。プロイラーはカラ揚げや照り焼きなど、弁当の素材としては欠かせませんし、やはり年末にはクリスマス需要も伸び、例年、上昇するからです。「もし、いま12月に使う分を買って在庫しておいたら利益が出る」。このようなことは容易に想像ができます。しかし、冷蔵庫の容量には限りがありますし、増設には費用もかかります。プロイラーは生ものだけに、できるだけ期近で鮮度のよいものを買いたいとも思っていました。そのとき、食鳥次郎はプロイラーの先物取引を思い出しました。「ちょっと研究してみるか」。食鳥次郎は1週間研究した後、9月上旬、10枚(100トン)のプロイラーを1月限で買ってみました。価格は500円。現物価格は535円。8月下旬に比べてどちらも小幅な下落です。その後、先物価格は550円台になったと思ったら500円を割るなど一進一退を続けていましたが、12月10日、575円に達しました。一方、現物価格は635円に大きく上がってい

ます。「そろそろ需要もピークに近い」。そう思った食鳥次郎は先物取引で買っていた10枚を575円で売り、養鶏業者から現物を635円で買いました。

先物取引では買った価格と売った価格の差は75円。一方、現物価格は110円上がっていましたので、先物取引では利益は出ましたが、現物取引では110円高く買ったことになります。

安値時の在庫含めるとプラス

そもそも、先物取引がなければ110円丸々高く買わされたことを考えると、相当なプラスです。しかも、9月の安値時に仕入れた分もあるので、それを使えば、こちらは利益が出て、「全体ではプラス」という計算も成り立ちます。「すべてを先物取引でヘッジする必要はない。一部をヘッジすれば経営安定に役立つはずだ」。食鳥次郎はそう割り切って考えました。

このころ、プロイラーや生産者の養鶏太郎も新たな作戦を立てていました。鳥インフルエンザを恐れて、消費者がプロイラー離れをしたら価格が暴落しかねません。「少しヘッジ売りをしてみるか」。経営安定に先物取引の効果が少しづつ分かってきたようです。